

社協だより

第104号 ふれあい

2020年1月1日

五輪坂ケアセンター内

羽後町社会福祉協議会

お気軽に足をお運びください



事務室のレイアウトを変更しました



新たに設置した相談室です



増設した女性トイレです

7月中旬から9月中旬にかけて事務所等の改修工事が行われました。

これまでは、会議室がひとつしかなく、会議や困りごと相談での来客の方々に不便をかけることが多々ありましたが、そういったことを解消するため、今回の改修にて相談室を新たに設けました。また、トイレの数も男女ひとつずつだったものが、女性用3つ、男性用2つに増設しています。

細かく変更になった部分は多々ありますが、今までより一層町民の皆様が利用しやすい環境となりましたので、お気軽に来所していただければと思います。



新年あけましておめでと
うございます。年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶とお慶びを申し上げます。旧年は年号が令和に変わり、国としては天皇の即位や皇室の国行事も滞りなく終わり、国民も慶事の年でありました。

一方では地球温暖化の影響で、大雨や台風による大災害の発生した年でありました。被災を被った被災地では、未だに復興半ばで、援助や人手を求めております。9カ月が過ぎましたが、慶事に浮かれることなく、自分達の足元をしっかり見据えた行動を取っていかねばなりません。特に社会福祉協議会は地域福祉推進の中核を担う

べき役割の立場にあり、2025年は団塊の世代が後期高齢者となるピークの年となります。その後は、2040年まで少子高齢、人工減少が続く、若者1.5人で高齢者1人を支えるという時代がやってきます。継続事業となりますが、助け合いの地域づくり、地域共生社会の実現に向けた、見える羽後町社会福祉協議会となる様、役員一同一生懸命頑張つて参りますことを申し上げます。新年の挨拶いたします。



役員を紹介いたします

会長	高橋 武太郎	(新 成)
副会長	村上 與子	(仙 道)
理事	石垣 長右衛門	(元 西)
	品川 隆雄	(民 協)
	谷口 勇三	(明 治)
	長谷山 洋文	(田 代)
	佐藤 万里子	(社 協)
	阿部 公一	(西馬音内)
	藤原 朝雄	(三 輪)
	藤原 富雄	(西馬音内)
	佐藤 節夫	(三 輪)
〃(業務執行)	佐々木 尚敏	(三 輪)
代表監事	鈴木 昇	(仙 道)
監事	横山 国雄	(西馬音内)
	阿部 正助	(三 輪)



首都圏羽後町会より

車椅子を寄贈して

いただきました

首都圏在住の羽後町出身者で構成されている「首都圏羽後町会」の総会並びにふる里まつりが令和元年11月24日に行われ、社会福祉協議会へ2台の車椅子が寄贈されました。



→ いただいた車椅子は有効に活用させていただきます →



この車椅子は、会員の皆様からのチャリティー募金で購入されたものです。いただいた車椅子は五輪坂デイサービスセンターで活用させていただいています。多年にわたっての寄贈、誠にありがとうございます。

災害ボランティアセンターへ羽後町社協より職員を派遣しました

令和元年10月12日に日本へ上陸した台風第19号により、東日本の各地で甚大な被害が発生しました。

被災地では多数のボランティアによる支援活動が行われております。

災害ボランティアセンターの運営スタッフが充分に確保できていないという状況にあり、全国から応援スタッフが駆け付ける中、羽後町社会福祉協議会からも宮城県大郷町、丸森町へ延べ3名の職員を派遣しています。大郷町、丸森町共に河川の氾濫等による家屋の床上、床下浸水や土砂崩れによる損壊、土砂竹木の堆積による道路の封鎖、また、農地も大きな被害を受けていました。支援ニーズの多くは家

財道具の運びだしや泥かきで、多くのボランティアの皆さんが、早期の復興を目指す被災者の力となるため支援活動に汗を流していました。



↑丸森町でのボランティア活動の様子(丸森町災害VC FBより)



↑大郷町ボランティアセンターの様子(出発まえのオリエンテーション)

日本赤十字会費・青い羽根募金にご協力ありがとうございました

令和元年度の日赤会費及び青い羽根募金について、別表のとおりご報告いたします。皆様のご協力に感謝申し上げます。

令和元年度日赤会費集計表

地区名	実績額(円)	世帯数
西馬音内	793,700	1,232
三輪	599,350	1,073
新成	316,700	452
明治	240,800	344
元西	277,900	397
田代	302,400	432
仙道	308,600	299
合計	2,839,450	4,229

ありがとうございました



令和元年度青い羽根募金集計表

地区名	実績額(円)	世帯数
西馬音内	124,500	1,256
三輪	97,600	1,072
新成	45,500	455
明治	34,700	347
元西	41,300	413
田代	43,200	432
仙道	27,700	277
合計	414,500	4,252

第48回 羽後町社会福祉大会

文化交流施設美里音にて開催

午前・式典の部

式典の部では、社会福祉関係物故者に対する黙とうに始まり、町民歌斉唱ののちに、地域福祉に貢献された個人や団体の皆様への会長表彰が行なわれました。今回の表彰は1個人3団体に対して行われました。内容等は下記にてご紹介させていただきます。その後、大会宣言が読み上げられ、満場の拍手の中承認され午前の式典の部を閉じました。



表彰状

○有限会社コーリヤマ

代表取締役 藤河 正弘様

長年にわたり、地域社会への貢献として毎年、土館から下開間の県道（歩道）にかけて、全社員で清掃活動を実施されております。会社を挙げての奉仕活動は町民の模範と認められ、その活動に敬意を表しての表彰となりました。

○赤沢仲間の会

代表 松井 静子様

約40年間、月2回の割合で開催している茶話会を通じて地域の親睦と融和に貢献しています。こうした活動が、今日の地域で行うサロンや共助体制づくりの先駆的事例と認められての表彰となりました。

○小坂 松也様（田代）

長年にわたり羽後町身体障害者福祉協会会長、社会福祉協議会田代支会理事などを歴任し、地域の福祉活動に積極的に貢献してまいりました。

また、上到米長寿会会長として、地域のまとめ役や田代福祉センターでの花の植栽など環境美化にも貢献され、その功績は町民の模範と認められました。

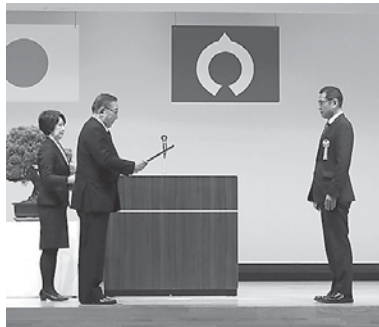
（小坂様は昨年12月にお亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈りいたします）

善行表彰

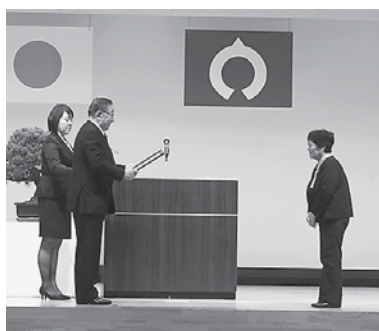
○羽後町立

羽後明成小学校 様

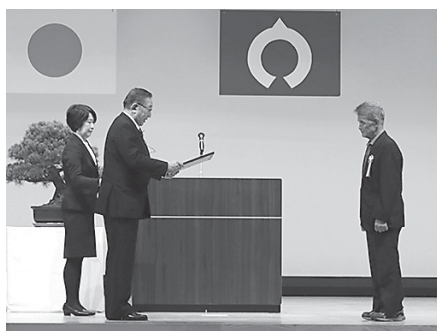
羽後明成小学校が統合した平成20年4月、それまで新成、明治各小学校が進めてきた福祉行事を引継ぎ、毎年春に6年生が高齢者ひとり暮らしの方を花鉢とメッセージを持って訪問し、秋には1年生が松喬苑に入所されている方々へ歌や遊戯などを披露して交流を行い、皆さんに喜んでいただいています。こうした活動を通して長年にわたり地域福祉に参加していただいております、他の模範と認められました。



↑有限会社コーリヤマ 様



↑赤沢仲間の会 様



↑小坂松也 様（代理受賞）



↑羽後明成小学校 様



↑受賞者の皆様

記念行事 & アトラクション

→日本赤十字社秋田県支部
稲岡氏による記念講演



→ブラボー中谷氏による
記念ステージ



令和元年度は、羽後町社会福祉協議会の法人化30周年の節目の年となります。そんな記念となります。今回の羽後町社会福祉大会では、記念講演として日本赤十字社秋田県支部より参事兼事業推進係長の稲岡一枝氏を、記念ステージとして、テレビでお馴染みのブラボー中谷氏をお招きして30周年に

→もたにしこども園



華を添えていただきました。他にも、もたにしこども園の皆さんによる歌と踊り、仙道番楽の皆さんによる迫力満点の獅子舞、篠原育子氏によるスローエアロビ、毎年恒例の西馬音内盆踊り等、30周年にふさわしい盛りだくさんな内容で来場者の皆さんを楽しませていただきました。

→西馬音内盆踊り



←仙道番楽

→にやじろうも応援に
駆け付けてくれました



←篠原育子氏スローエアロビ

この福祉だよりは、共同募金の配分金で発行されています。



NHK海外たすけあい募金

令和元年12月7日(土)羽後町赤十字奉仕団による街頭募金が、マックスバリュ西馬音内店様前にて実施され、19,315円の寄付金を集めることが出来ました。皆様のご支援ありがとうございました。

心といのちを 考える講演会

開催します

羽後町ボランティア団体連絡協議会主催による、「心といのちを考える講演会」が令和2年2月26日(水)文化交流施設美里音にて開催されます。

今回は仙北市玉林寺住職の齋藤昭道氏を講師にお招きして講演をしていただきます。

聴講無料となっていますので、ご近所お誘いあって是非ともお越しください。

地域で行われている サロン活動の紹介です

11月27日に三輪地区大久保集落で行われたサロン活動の様態です。この日は三輪小学校5年生の皆さんに参加していただき、折り紙やあやとり、カードゲームなどをしながら交流を楽しみました。



寄金

10月

(株)五輪坂ハイッ
代表取締役 佐藤康雄様

12月

三輪 大野晃児様

9月

秋田県看護協会
湯沢雄勝地区支部
支部長 佐藤友子様

10月

J Aこまち女性部
西馬音内支部
夕オル様



心あたたかいご芳志
ありがとうございました



小学3年生の孫が「じいちゃんじいちゃん、大変だから来てくれ！」と言って畑仕事をしているところへ走って来ました。なんだと思っ行ってみたら、流雪溝に100円が落ちてから拾ってくれたことでした。小3の子供では中に入っていく術がわからず私が拾ってあげることにしました。そして、「見つけた人は30円、拾った人が70円かどうか」と言ったら、それはダメだと言うので、「50円、50円ではどうか」と言ったら「いいよ」ということで中に入れて拾いました。私の財布から50円出して孫に渡して私が100円手にしたら、「なんかじいちゃんだけ得したようだ」と言って納得しないような顔して言いました。そんな春先の孫とのやりとりでした。孫は大きくなったらそんなことは忘れてしまおうだろうが、私はいつまでも忘れないだろう。

(T・I)